

質問順位	2	質問者	渡辺精郎議員		
件名	項目	要旨		メモ	
1. 市長の基本姿勢	1. 市長就任4年目の「刷新市長」の市政執行方針について	<p>1. 前田市政の総仕上げの年度を迎えます。このとき市長が選挙戦で公約した一般行政の方針は粛々と実践しつつあることは評価いたしますが、「刷新市長」としての立場が薄れ、「所詮誰が市長になっても同じだ」と多くの市民が私に訴えてまいります。ご多忙でしょうが市民の声行脚をされると明確です。</p> <p>それもそのはず、4年目を迎える市政執行方針に「刷新市長」の3年間で語られていません。市民は「刷新市長」で前田市長は当選したと認識しています。日本中を震撼させた滝川市のマイナスイメージからの脱却を期待しての市民の市長選択であったと思います。その期待に応えるには被選挙人として初心・原点を忘れないことです。そのために、当時の新聞報道の記事をもう一度通読され、見解を伺います。</p>			
		<p>2. 「チーム滝川」を提起し行政の総合力を最大限に発揮するとしています。それは、とりも直さず「刷新滝川」を意味しているのかと考えますが、「チーム滝川」と言えば、過去にあった生活保護費詐欺事件において、おおよそ「部・課のチーム」内の範囲で巨費の支出の事実を1年半にわたって部外秘とし、議会の決算委員会でもこの事案を伏せていたという不祥事の再現がないようにしなければいけないと考えますが、その見解と具体的な施策を披瀝していただきたいと思います。</p>			

質問順位	2	質問者	渡辺精郎 議員		
件名	項目	要旨		メ	モ
		<p>3. 前田市政として、当初から「世界に誇れる国際田園都市」の実現を重要課題として推進する計画でした。しかし、その実効が見えてきません。まして市民は全然興味を示していません。4年目を迎えてどのように基本目標に近づけようとしているのでしょうか。具体例をあげて決意のほどを披歴していただきたいと思います。</p>			
2. 公共事業と公共施設のありかた	1. 中心市街地活性化と駅前広場の再整備について	<p>1. 駅前広場の再開発が進められようとしています。公共交通機関の拠点として市民の多くが利用できる利点があります。しかし、中心市街地活性化も、行政の活性化・賑わいづくり進行方向とは逆な時代背景が到来しているのではないのでしょうか。三番館の高林デパートからの撤退で滝川からデパートの機能がなくなってしまうのも同然です。スマイルビルからはテナントの撤退が続いています。これらの原因は、何としても人の流れ、集まりがないことです。</p> <p>政策の目標と現実はずれがあり、施策に市民がついて行っていないのが現状ではないのでしょうか。この駅前広場の再開発の投資と中心市街地の活性化を結びつけるポイントは何でしょうか。人々の購買志向はすでに大型店に向いており、中心市街地の役目は変化してきていると思われませんが見解を求めます。</p>			

質問順位	2	質問者	渡辺精郎 議員		
件名		項目	要旨	メモ	
		2. 駅前広場再整備とスマイルビルの行方について	<p>1. 「スマイルビルは1億6,000万円の固定資産税の滞納がある」と発表したのは、市長選での立会演説会において前田候補が提起したものであり、当選すると滞納も「個別案件で秘密」という名のもとに「秘密保護」の範疇に入っており、議会になじまなくなってきました。</p> <p>中心市街地活性化の関連で、滞納の対抗措置として「差押えしたスマイルビル」の行方はどこへ向かうのかはっきりとしません。今、駅前広場の再整備と中心市街地活性化をうたうのであれば、市としてスマイルビルをどう位置づけるのかを議論しないで中心市街地活性化や再開発は語れないと思われませんが見解を求めます。</p>		
		3. 「滝川市公共施設マネジメント計画」について	<p>1. 滝川市の公共施設が多いということは一般市民も認識しています。休眠状態の公共施設が多く、こうした施設の用途廃止や撤去を急ぐ必要があります。</p> <p>ところが、公共施設が多いということを、コミュニティセンターや公民館などが多くて市の財政を圧迫しているというような論点だけに集中し、マスコミもコミュニティセンターの集約を報じ、市広報2月号に至っては、コミュニティセンターと小学校との複合化を大きく特集しています。2月25日の町内会代表者研修会でもこのことが話題になり、議会で決定していないうちに市広報で報じると、もう決まったものと勘違いするという批判が出ました。</p> <p>総合福祉センターとかコミュニティセンター・公民館など、一般市民や町内会・老人クラブが頻繁に使用する公共施設を一律に優先ターゲットにすることは望ましくなく、市民活動を制限することと同じではないでしょうか。</p> <p>古くなった公共施設・使用していない公共施設を徐々に処分していくマネジメントは当然ですが、一般市民の拠り所として大切に委託管理しているコミュニティセンターを、しかも、30年弱の若築年数のものを廃止するという案には多くの批判・反対が出てくると思いますが、見解を求めます。</p>		

質問順位	2	質問者	渡辺精郎 議員		
件名	項目	要 旨		メ	モ
	4. 丸加高原伝習館のあり方について	<p>1. 江部乙の豊かな資源や美しい景観や環境を生かしたNPO法人「日本で最も美しい村」連合への加盟を目指すことは素晴らしいことです。このとき、どうしても丸加高原伝習館の行方が問題となってまいります。ほとんど市民利用のないこの施設に、コミュニティセンター13館の委託料より多くの財政負担をかけていることを市民が知ったら、そんな公共施設のやり方なのかと批判があると思います。</p> <p>予算は今年もつけている丸加高原伝習館をどのように運営されるのか見解を求めます。</p>			
3. 教育行政	1. 子どものいじめ防止について	<p>1. 「滝川市子どものいじめの防止等に関する条例」制定が今市議会で審議されます。私はいじめで自殺した当時江部乙小学校6年生だった女子児童の霊（みたま）とご遺族の願いのためにも早期の条例制定を喚起してまいりました。</p> <p>滝川市が、いじめ防止条例の制定をすることの意義は言わずもがなの情勢で、全国で注目されていたはずであります。2年3年前に作られていたら、全国的評価を受けたはずですが、国や道の情勢を待ち過ぎたきらいがあります。</p> <p>しかし、待っただけあって、条例の内容はたいへんよくできたと評価したのであります。</p> <p>さて、条例制定を機にいじめを本当になくすための有効手段が、家庭や学校で生かされることであり、大人の世界では、専門委員会・問題対策連絡協議会などの対応策は完成しつつありますが、根っこは子どもの心に「いじめをなくす」火を灯させることであります。いじめは大人の居るところではやりません。子どもたちの世界で、しかも集団で巧妙に陰湿に行われるのであります。そのための対処を今後点検していきたいと思いますが、教育委員会として対処する決意のほどを表明していただきたいのであります。</p>			